

平成30年度事業報告書

自：平成30年4月1日 至：平成31年3月31日

(公益事業)

公1事業、写真に関する創作活動の奨励、人材の育成、教育に係わる事業

(1) 小学生を対象とした「写真学習プログラム」を全国の小学校35校で指導者21名、参加児童数902名で実施した。このプログラムは、児童たちの興味や関心事に目を向け児童と共に体験を通して学ぶ、「体験、参加型」の学習並びに指導で、写真という優れた記録媒体を使つての「記録・表現することの意味」を理解し、家庭や社会で広く写真を活用してもらおうとの願いがある。(14年間の合計676校23,490名)。富士フィルムイメージングシステムズ(株)の協力でいった。

この児童たちの作品を多くの方々に見ていただこうと、富士フィルム(株)・富士フィルムイメージングシステムズ(株)が主催する「“PHOTO IS” 想いをつなぐ。50,000人の写真展2018」での特別企画「“PHOTO IS” 小学生の眼」へ参加児童の作品を毎年展示している。本年も595点を7月～11月迄東京等11会場に展示した。児童がどのような物に興味をもつて撮っているか、子どもたちの多様な感性を鑑賞していただいた。

(2) 「エコトークフォトコンテスト」を都近郊の小学校で4組実施、参加児童139名の作品を選考した。クラレトレーディング(株)の協賛。

(3) 全国高等学校文化連盟写真部との共催で催している第12回高校写真部顧問を対象とした「デジタル写真講座」を、6月17日高知、7月21日富山の2カ所で開催した。高校生の大半がデジタルでの写真制作を行っている現在、顧問の先生方もカメラの仕組みや使い方、インクジェットプリントの技術を習得しようとして約7時間の講習を熱心に体験された。(株)ニコンイメージングジャパンとエプソン販売(株)の協力でいった。

日時	開催地	講師	受講者
6月17日(日)	高知県国民宿舎 桂浜荘	山口勝廣、和田直樹、小倉隆人、高橋正徳	教師16名
7月21日(土)	富山県・高岡第一高等学校	松本徳彦、小池良幸、青山清寛、安念余志子	教師20名

(4) 技術研究会を行った。

開催名	場所	日時	参加数
第1回「シリーズ：デジタル時代のモノクロプリント その3 ラボ編・ラムダプリント 講師：澁井誠、中村隆介(株)写真弘社)	JCIIビル 6階会議室	6月6日(水)	56名
第2回「ギャラリーディレクターが語る 写真展示の基本」 講師：篠原俊之(Roonee247 fine artsディレクター) 秋山 治(株)フレマン 取締役営業部長)	JCIIビル 6階会議室	12月5日(水)	61名
第3回(関西)「フォトショップの新機能とライトルームの使い方セミナー ～写真家の為の作業短縮化講座～」 講師：大倉壽子氏(アドビシステムズ(株))	大阪市立総合 生涯学習センター6 階第2研修室	12月18日(火)	50名

(5) 専修大学文学部人文・ジャーナリズム学科での講義「報道写真論」の講師に公文健太郎、竹沢うるま両会員を派遣した。この講座は、学生たちの真実を見抜く目を育て、批評力と行動力を養うことを目的とし、メディアの第一線で活躍する写真家や実務者に実作と体験談をもとに、いまメディアの現場で、何が起きているかを理解してもらうことを目的として平成23年度に開設され、当協会は講師派遣を委託されている。

公2事業、写真の表現に関する展示、講演、保存に係わる事業

(1) 「第43回2018JPS展」を東京、名古屋、京都で開催した。

公募作品受付：2017年12月10日(日)～2018年1月15日(月) 作品審査：2月3日(土)

審査員：熊切圭介(審査員長)、今森光彦、ハービー・山口、水谷章人、佐々木秀人(『日本カメラ』編集長)

共催：東京都写真美術館

後援：文化庁、東京都ほか

総展示数：607枚(公募269名491枚、会員作品53名106枚、ヤングアイ10校10枚) 総入場者数：6,341名

応募総数：1,841名6,104枚(一般：1,694名5,799枚 18歳以下部門：147名305枚)

入賞・入選者総数：269名491枚

一般部門：240名442枚(文部科学大臣賞1名、東京都知事賞1名、金賞1名、銀賞2名、銅賞3名、奨励賞5名、優秀賞17名、入選210名)

18歳以下部門：29名49枚(最優秀賞1名、優秀賞9名、入選19名)

パントリー：「ヤングアイ」参加校10校

参加校・現代写真研究所、東京工芸大学 芸術学部 写真学科、学校法人呉学園 日本写真芸術専門学校、日本大学芸術学部 写真学科、東京総合写真専門学校、名古屋学芸大学 メディア造形学部 映像メディア学科、学校法人 Adachi学園 ビジュアルアーツ専門学校、学校法人 日本写真映像専門学校、大阪芸術大学 芸術学部 写真学科、九州産業大学 芸術学部 写真映像学科

公益社団法人日本写真家協会 会長賞：学校法人 Adachi学園 ビジュアルアーツ専門学校「Street beyond Border」鈴木拓也、陳捷、内田斗磨

ヤングアイ奨励賞：九州産業大学 芸術学部「向こうの向こうまで」豊永茜、鎌田拳伍

会員作品部門：会員53名106枚「ポートフォリオ2～PortfolioⅡ～」

入場料(各展共通)：一般700円(団体割引560円)、学生400円(団体割引320円)、高校生以下無料、65歳以上400円(関西展、名古屋展は65歳以上無料) ※団体は20名以上

各都道府県応募者数

北海道 29、青森 5、岩手 19、宮城 22、秋田 7、山形 5、福島 11、茨城 49、栃木 24、群馬14、埼玉 141、千葉 111、東京 212、神奈川 208、山梨 3、長野 40、新潟 54、富山 4、石川 12、福井 1、岐阜 27、静岡 21、愛知 164、三重 30、滋賀 67、京都 99、大阪 130、兵庫 74、奈良 36、和歌山 18、鳥取 14、島根 5、岡山 41、広島 21、山口 6、徳島 10、香川 19、愛媛 9、高知 7、福岡 27、佐賀 10、長崎 7、熊本 5、大分 6、宮崎 3、鹿児島 5、沖縄 8、海外 1名

2018JPS展副賞提供社 (52社)：株式会社アイデム、朝日新聞出版(アサヒカメラ編集部)、株式会社アスカネット、株式会社 アマナ、株式会社 市川ソフトラボラトリー、ヴァイテックイメージング株式会社、株式会社 栄光舎、エプソン販売株式会社、LPL商事株式会社、オリンパス株式会社、株式会社 キタムラ、キヤノンマーケティングジャパン株式会社、株式会社 学研プラス(CAPA編集部)、株式会社ガードフォース ジャパン、清里フォトアートミュージアム、株式会社 クラレ、株式会社 クレヴィス、株式会社 ケンコー・トキナー、株式会社 玄光社、株式会社コスモス インターナショナル、サイバグラフィックス株式会社、株式会社Sakura Sling project、サンディスク株式会社、株式会社 シグマ、株式会社 写真弘社、写真文化首都 北海道「写真の町」東川町、スリック株式会社、株式会社 セコニック、ソニーイメージングプロダクツ&ソリューションズ株式会社、株式会社ソフトウェア・トゥー、株式会社 タムロン、デジタルカメラグランプリ事務局、凸版印刷株式会社、株式会社 ニコンイメージングジャパン、株式会社 日経ナショナル ジオグラフィック、一般財団法人 日本カメラ財団、株式会社 日本カメラ社、株式会社 日本写真企画、ハクバ写真産業株式会社、パナソニック株式会社、株式会社ピクトリコ、株式会社 風景写真出版、富士フイルムイメージングシステムズ株式会社、株式会社 フレームマン、株式会社プロ機材ドットコム、プロフォト株式会社、ベルボン株式会社、株式会社堀内カラー、三菱製紙株式会社、光村印刷株式会社、株式会社モーターマガジン社、リコーイメージング株式会社 (50音順)

開催名	会場	日時	参加数
◆東京展 (共催：東京都写真美術館 後援：文化庁、東京都 協力：会場モニター・パナソニック㈱) 表彰式 講演会 「写真の著作権がわかれば肖像権なんか怖くない！」講師：佐々木広人(『アサヒカメラ』編集長)、近藤美智子(弁護士・虎ノ門総合法律事務所)、加藤雅昭(JPS著作権担当理事、日本写真著作権協会理事) (3会場共通、共催：日本写真著作権協会) 祝賀パーティー イベント「大三元ズームレンズを体験しよう!!」 協力：オリンパス㈱、キヤノンマーケティングジャパン㈱、㈱ケンコー・トキナー、㈱シグマ、ソニーイメージングプロダクツ&ソリューションズ㈱、㈱タムロン、㈱ニコンイメージングジャパン、富士フイルムイメージングシステムズ㈱、リコーイメージング㈱	東京都写真美術館 B1F	5月19日(土)～	3,892名
	東京都写真美術館 1F	6月3日(日)14日間	
	ホール	5月19日(土)1時	230名
		〃 3時	190名
	ビ・マステーション恵比寿	5月19日(土)5時	194名
	東京都写真美術館 1F	5月26日(土)	31名
	スタジオ		
◆名古屋展 (後援：文化庁、愛知県、愛知県教育委員会、名古屋市、名古屋市教育委員会) 作品講評会 講評：専務理事・山口勝廣 講演会 「写真の著作権がわかれば肖像権なんか怖くない！」	名古屋市民ギャラリー矢田 第1～3展示室 名城大学カレッジ・ホーム前キヤンパス南館DSホール	6月19日(火)～ 24日(日)6日間 6月23日(土) 13:00～15:30	1,008名 約250名

◆関西展（後援：文化庁、京都府、京都府教育委員会、京都市、京都市教育委員会） 作品講評会 講師：副会長松本徳彦 講演会「写真の著作権がわかれば肖像権なんか怖くない！」	京都市美術館別館	7月10日（火）～ 15日（日）6日間	1,390名
	京都市国際交流会館 イベントホール	7月14日（土） 14:00～16:45	193名

(2)「2018年新入会員展－私の仕事」を開催した。

会期	場所	入場数	備考
7月12日（木）～18日（水） 12日（木）18:00～19:30	アイデムフォトギャラリー「シリウス」 〃 オープニングパーティー	1,251名	展示31名62枚 参加者151名
8月10日（金）～16日（木）	富士フィルムフォトサロン大阪	3,150名	

(3)「写真が持つ力とは何か」について語る、第12回JPSフォトフォーラム「テーマ、眼差し、写真の力－三人の女性写真家の物語－」を11月10日（土）、有楽町朝日ホールで開催した。参加者333名。（共催・朝日新聞出版、後援・文化庁）講演とパネルディスカッション。パネリスト：大石芳野、田中弘子、安田菜津紀 司会：佐々木広人（『アヒカワ』編集長）、協賛（7社）：エプソン販売(株)、オリンパス(株)、キヤノンマーケティングジャパン(株)、(株)シグマ、(株)タムロン、(株)ニコンイメージングジャパン、富士フィルムイメージングシステムズ(株)。

(4)文化庁委嘱事業「文化関係資料のアーカイブ構築に関する調査研究」

①収集・保存

平成30年度収集・調査を行った写真家と原板資料受け入れ状況は、2名2団体、約340本となった。

撮影者・団体名	受入日	受入本数		内容
		初期調査未	初期調査済	
新聞洋子	2018年6月13日	—	106	写真集『子どもたちの視点』
岩永辰尾	6月12日	—	232	1970年前後のスナップ写真
写真協会（2回目）	2019年1月28日	2	—	笹本恒子撮影原板コピー資料
岩波写真文庫（〃）	3月18日	3	—	
合計4名		5	338	

相模原分館フィルム保存庫への写真原板入庫内容と入庫数は、吉岡専造(389)、中村由信(189)、佐藤明(114)、中島健蔵(266)、向井潔(234)、山端庸介(1)、渡辺義雄(8,298)、佐伯義勝(400)、杵島隆(141)、写真協会(1,524)、菅井日人(342)、若目田幸平(349)、常盤とよ子(29)、新聞洋子(106)、岩永辰尾(226)で合計15名12,608枚。

②情報発信：日本写真保存センターがこれまでに収集した写真フィルム約31万本を写真情報の整理・分類を行い、WEB上で閲覧・検索が行えるデジタルアーカイブを構築している。講師に丸川氏を迎えて、「写真アーカイブとは何か」「デジタル化によって利活用がどのように広がるか」についてのセミナーを開催した。

開催名	会場	日時	参加数
page2019オープンイベント・日本写真保存センターセミナー「写真フィルムのデジタルアーカイブ－デジタル化による利用・検索の可能性－」講師：丸川雄三(国立民族学博物館准教授)	池袋パシフィック文化 会館7階会議室	平成31年2月 6日(水)	73名

③広報活動：CP+2018特別展催した写真展「後世に遺したい写真－写真が物語る日本の原風景－」を10月25日（木）～11月24日（土）、品川区大崎の光村グラフィック・ギャラリーに於いて開催した。入場者：1,100名（27日間）オープニングパーティー参加者90名。共催・光村印刷株式会社、後援・品川区、（公財）品川文化振興事業団、協力・（一社）日本写真著作権協会。本展の図録と保存センターの活動記録集を制作した。また、会期中の10月27日（土）、光村本社ビル12階の会議室で、横浜市民ギャラリーあざみ野の主席学芸員天野太郎氏と松本徳彦JPS副会長による講演会「残された写真から何を感じ、読み取るか」を開いた。参加者40名。

④収集した写真原板の整理作業の効率を高めるために、平成31年2月に台東区台東3丁目16番地5号のミハマビル5階に（約60坪）日本写真保存センター分室として移転した。前室に多目的の空間（会議室、展示室など）を設け、収蔵作品の展示、セミナー等の開催。次室は原板の整理、スキャニング、台帳の作成など、最も大事な作業スペースを確保。その奥が原板の一次収蔵室。相模原の映画アーカイブの収蔵庫へ原板を移すまでの低温室を設けた。

⑤2014年度から発足した日本写真保存センターの作業に係る費用を支援いただくための支援組織は、会員数12社1団体で、会議は4月25日（水）と10月25日（木）写真展オープニング会場で開き、引き続きのご支援を依頼した。

(株)アイデム、エプソン販売(株)、オリンパス(株)、(株)キタムラ、キヤノン(株)、(株)シグマ、(株)写真弘社、(株)タムロン、凸版印刷(株)、(株)ニコン、富士フイルムイメージングシステムズ(株)、(株)フレームマン、(一社)日本写真著作権協会。

- (5) 日本写真家協会企画写真展「20世紀に活躍した貌」(2017年11月21日～27日、ニコンプラザ新宿THE GALLERY 1+2)の巡回展を4月12日～18日、ニコンプラザ大阪 THE GALLERYで催した。1960年から90年代、活躍した文士や芸術家、政治家、学者、舞台人、スポーツ関係者など多彩な人物像で構成。出展者は会員18名で、登場人物40名、モノクローム70点。
- (6) 2020年に協会が創立70周年を迎えるに当たり、創立記念写真展「日本の現代写真 1985～2015」(仮称)の開催並びに写真史の出版を企画。創立70周年記念委員会を設け、編纂作業をした。監修：田沼武能 編纂委員：上野修、飯沢耕太郎、金子隆一、多田亜生、鳥原 学、丹羽晴美。編集委員：熊切圭介(会長)、野町和嘉、松本徳彦、山口勝廣と協会理事、会員。写真展と出版の構成は、1985年以降2015年までの30年間の写真表現を総括することにした。会期：2021年3月以降約3年間(巡回展を含む)会場：東京都内の美術館(地方巡回を含む)出展：約150名150点。写真集：発行所・株式会社クレヴィス、2021年3月 B5判 予定。
- (7) 平成30年7月豪雨被災者支援のチャリティー写真展を催し、その売り上げは日本赤十字社を通して被災地へ支援をした。2018年9月26日(水)～10月2日(火) FMエキシビジョンサロン銀座、出品作家・会員147名382枚、販売価格・10,000円～50,000円額装代含。販売・124枚1,880,000円、経費・738,901円(会場代、額装代)、会場の募金・15,027円。平成30年10月16日、日本赤十字社の指定口座に1,156,126円(会場の募金含)を送金した。

公3事業、写真に関する著作権の普及、啓発に係わる事業

(1) 著作権に関する研究会、セミナーを開催した。

開催名	会場	日時	参加数
第1回「「著作者人格権の危機」 講師：斉藤 博(弁護士、新潟大学名誉教授)	JCIIビル6階会議室	7月4日(水)	60名
第2回「肖像権を学ぼう～街の写真から人が消える前に～」 講師：大家重夫(久留米大学名誉教授)	JCIIビル6階会議室	10月31日(水)	84名
第3回(関西)「インターネット上の著作権侵害～その実態と対処法および問題点～」講師：浅川有三(弁護士)	大阪市立総合生涯学習センター第1研修室	平成31年2月8日(金)	42名

(2) Web上での写真著作権の問題点を研究した。

(3) 各種著作権契約に関する研究をした。

6月13日(水)「契約書の読み方講座 双務契約の合意を目指して」として講師に安藤和宏(東洋大学法学部教授)を招いてJCIIビル6F会議室に於いて研修会をした。参加者8名。

(4) 著作権の情報収集と公表を行った。

(5) 著作権に関する「著作権よろず相談室」を毎月第3水曜日実施。相談数10件。

(6) 保護期間70年延長への継続運動の研究等をした。

(7) 保護期間の満了した写真著作権の現状調査継続と関係機関との話し合いに参加した。

(8) 「フォトコンテスト応募に関するガイドライン」の実施状況の調査研究を継続して行った。

(9) 日本写真著作権協会(JPCA)との写真著作権に関わる事業協力をした。

公4事業、写真に関する図書の編集発行、電子出版・情報に係わる事業

(1) 『日本写真家協会会報』を年3回会報168、169、170号の3冊を発行した。168号・フォーカスで「新しい著作権時代の幕開け」著作権法改正を掲載、テレスコープで「平昌オリンピックに見る報道現場の今」五輪報道の現状を報告、JPS創立70周年事業「日本の現代写真」(仮題)編纂に向けての座談会。169号・テレスコープで「日本の現代写真 1985～2015」編纂作業を紹介、「フォトキナ2018見聞録」と題した海外レポートを掲載し、第14回「名取洋之助写真賞」の詳細発表をカラー頁で伝えた。170号・フォーカスで「著作権保護期間・死後70年の時代に!!」と題し著作権法の改正記事、第12回「JPSフォトフォーラム」報告の掲載、第2回「笹本恒子写真賞」受賞写真展。また、168号から新たに、富士フイルムとの共同企画によるギャラリーページ「FUJIFILM X GALLERY」を3頁増で設けた。

(2) 電子出版、インターネット、ホームページを利用したサービス業務を行った。
WEBサーバーのスキプトのバージョンの関係で別サーバーを契約し、2019年2月9日午前0時に当協会サイトを切り替え、同時にデータ通信の暗号化を実施した。

公5事業、写真に関する優れた技術開発、表現活動に対する顕彰事業

(1) 写真文化への貢献に対する顕彰として1967年に創設した第44回「日本写真家協会賞」を、ソニーイメージングプロダクツ&ソリューションズ株式会社に贈り、贈呈式を、12月12日(水)、アルカディア市ヶ谷で行った。贈呈理由は、ソニーは数々のイメージセンサーの開発を通じて高画質、高感度、高速処理などのデジタルカメラの進化を促し、写真表現の革新に貢献してきた。さらにフルサイズミラーレスカメラの開発を進め、高性能レンズや画像処理システムと合わせた卓越した技術力を駆使して、写真家の創作活動に新たな領域を開拓してきたことに対して。

(2) 新進写真家の発掘と育成を図るために、2018年第14回「名取洋之助写真賞」の公募を行った。

①公募：35歳までの新進写真家を対象に、同一テーマの作品(プリント)30点を、公募期間の7月1日～8月20日までに提出。プロ写真家から在学中の大学生まで、29名29作品。女性6人男性23人。カラー18作品、モノクロ6作品、モノクロ・カラー混在が5作品。飯沢耕太郎(写真評論家)、広河隆一(フォトジャーナリスト)、熊切圭介会長の3氏により、厳正な審査を行った。名取賞に鈴木雄介「The Costs of War」(モノクロ・カラー30点)を、名取洋之助写真賞奨励賞にやどかりみさお「夜明け前」(カラー30点)を選び、授賞式を12月12日(水)、アルカディア市ヶ谷で行った。

②2018年第14回「名取洋之助写真賞受賞作品写真展」を催した。

会期	会場	入場数
平成31年1月18日(金)～24日(木)	東京・富士フィルムフォトサロン東京	8,753名
平成31年2月15日(金)～21日(木)	大阪・富士フィルムフォトサロン大阪	3,101名
平成31年3月6日(水)～10日(日)	福島・福島市民ギャラリー	93名

JPSが企画する『名取賞受賞作品写真集』を制作した。

(3) 第2回「笹本恒子写真賞」は、有識者の推薦による実績のある写真家の候補者を、選考委員 椎名誠、大石芳野、熊切圭介の3氏により厳正な選考を行い、写真家足立君江さんに贈ることを決定した。授賞式は12月12日(水)アルカディア市ヶ谷。受賞理由は18年余にわたってカンボジアの農村地帯を訪ね、戦乱で荒廃した村々で目を輝かせながら働く子どもたちの、未来に希望を託す姿に感動してまとめた一連の写真集や写真展での優れた表現に対して。

また、受賞記念写真展「カンボジアの子どもたち」を12月20日(木)～26日(水)、アイデムフォトギャラリー「シリウス」で催した。入場者数：590名。

(4)「第43回2018JPS展」入賞・入選者269名。5月19日(土)、東京都写真美術館1階ホールで表彰した。入賞・入選者総数：269名。一般部門：240名(文部科学大臣賞1名、東京都知事賞1名、金賞1名、銀賞2名、銅賞3名、奨励賞5名、優秀賞17名、入選210名)、18歳以下部門：29名(最優秀賞1名、優秀賞9名、入選19名)入賞者：文部科学大臣賞・田中容之「里の生活」(5枚組 カラー)

東京都知事賞・河田和子「竹林のにぎわい」(5枚組 カラー)

金賞・藤野治雄「暮らしの中の祈り」(単カラー)

銀賞・國安里香「15の春」(3枚組 カラー)

銀賞・眞舘忠嗣「肢体」(3枚組 カラー)

銅賞・立花久光「祈願」(5枚組 モノクロ)

銅賞・小野賢治「大地とアスリート」(単モノクロ)

銅賞・吉田雅宏「最後の春」(単カラー) (奨励賞以下略)

18歳以下部門最優秀賞・星 啓人「雨上がりの後に」(単 カラー) (18歳以下部門 優秀賞以下略)

企画展示「ヤングアイ」公益社団法人日本写真家協会 会長賞：学校法人 Adachi学園 ビジュアルアーツ専門学校「Street beyond Border」鈴木拓也、陳捷、内田斗磨

「ヤングアイ」奨励賞：九州産業大学 芸術学部「向こうの向こうまで」豊永茜、鎌田拳伍

公6事業、写真に関する国際交流事業

(1) 国際交流セミナー、研究会を開催した。

開催名	場所	日時	参加数
第1回「香港の今、写真家アンドリュウ・ウォン」 講師：アンドリュウ・ウォン（写真家）	JCIIビル6F会議室	4月11日（水）	46名
第2回「インドネシア撮影情報セミナー -ジャワ島・コモド島・フローレス島の絶景-」 講師：JPS会員・芳賀日向、天神木健一郎、高嶋ちぐさ	港区・日本アセアンセンター アセアンホール	6月18日（月）	43名
第3回（関西）「キョウトグラフィーに見る写真家の国際交流」 講師：仲西祐介（キョウトグラフィー共同代表）	大阪市立総合生涯学習センター第2研修室	平成31年1月16日（水）	57名

(2) 海外の写真情報の収集として近年日本に長期滞在して写真を撮りたいという海外の写真家からの問い合わせが多数あり、これに対して随時対応をした。国際交流委員会としてより協力的な情報発信をできないか検討をしている。

(収益事業)

収1事業、書籍、物品の販売事業

- 『2018JPS展作品集』を製作し、5月19日に発行した。
- ネガカバー、ファイルなど写真整理用品や「JPS腕章」とPRESSステッカーの製作及び販売をした。
- 海外プレスカードの発行をした。

(その他の事業 共益事業)

他1事業、ニュース、名簿の製作発行事業

- 『JPSニュース』を年11回（No. 562～572）発行した。
- 『2018会員名簿増補版』を平成30年6月に発行した。

他2事業、祝賀会の事業

- 平成30年度の会員相互祝賀会を12月12日（水）、アルカディア市ヶ谷に於いて、会員、賛助会員や文化関係者などの出席で行った。参加者376名。

他3事業、保険の事業

- 2018年度よりJPS団体所得補償保険への団体加入は任意保険の加入者減少のため業務休止とした。また、保険会社との協力で団体所得補償保険の見直しを行い、次年度より新保険制度が導入できる見込みとなった。

事業報告書の付属明細書について

この事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する付属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成いたしません。